

西伊豆健育会病院

症 例 概 要 「びょういんくえすとin西伊豆健育会病院」という病院オリジナルの子ども病院職業体験会を開催。病院ファンづくりを実現した事例。

R7年から始まった地域共創プロジェクトの取組。病院が主体となって地域とコラボし地域活性化を目的とした取組です。その派生で誕生した”子ども部”。将来の医療従事者確保と病院ファンづくりを目的として、この度、初めて病院主催で地域の小学生の子どもを対象にした病院の医療職の体験会を開催しました。

内 容

西伊豆健育会病院では、R7年より始動した地域共創プロジェクトの派生として「子ども部」が発足しました。事務、医療連携室、リハビリテーション科、放射線科、健康管理室の5名で構成されるメンバーが中心となり、「病院ファンづくり」や「将来の医療職確保」という目的を掲げ、今年4月の地域共創プロジェクト会で提案された“子どもの職場体験会”の実現に向けて活動を続けてきました。

どうすれば子どもたちが病院に親しみをもち、将来の医療従事者を目指すきっかけになるかを多職種で検討を重ねた結果、病院オリジナルの職業体験会「びょういんくえすと IN 西伊豆健育会病院」が誕生しました。当日はスタンプラリーを模したクエスト形式を導入し、体験を“ミッション”としてクリアしていく仕掛けを取り入れることで、子どもたちがわくわくしながら学べる内容としました。

事務では子ども用のユニフォームを業者レンタルで手配し、健康管理室のスタッフは特技を生かしてポスターやイラストを作成するなど準備に工夫を凝らしました。院長自らが子どもたちを迎え入れ、看護師は処置室で心音測定などの健康チェックを小学生同士で実践できるよう指導し、薬剤科では分包機を使ってお菓子の一包化を体験、検査室では顕微鏡で自分の細胞を観察し、栄養科では退院カードに患者さんへのメッセージを書き添えるなど、病院全体で協力して多彩な体験を提供しました。

参加した子どもたちは憧れの母親と同じナース服を着てナースステーションに入ったことに感激し、来院者からも「先生や看護師さんと同じ格好をされていていいね」との声をいただくなど、多くの反響が寄せられました。

初めてのチャレンジとなった今回の取り組みは、7名の参加者を募る事ができ、子どもや地域住民に病院を身近に感じてもらう新しい切り口となり、病院ファンづくりという大きな成果につながりました。多職種が協力して企画から準備、運営までをやり遂げたことは、今後の地域共創の可能性を広げる貴重な経験であり、GOOD OUR TEAM賞にふさわしい活動であると考えます。

【子ども部：連携室・事務・リハビリ・放射線・健康管理】

・ポスター・スタンプラリー等のイラスト作成。体験用ユニフォームの手配。体験会の企画、準備、運営、子ども達を陰ながら支えて体験会を盛り上げた。

【医師】院長自ら子ども達を笑顔で迎えて体験会を後押し。

【看護】処置室で各種体調測定、子ども達に看護師の働く姿を見せた。

【検査】検査室を案内、細胞を顕微鏡で見るなどの体験提供。

【薬剤科】分包機を使った職業体験、子ども達はお菓子で一包化を行った。

【栄養科】退院カードのメッセージ作成の提供をし退院患者も喜ぶ工夫をした。